

令和5年 第862回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和5年12月15日(金)		開会 15:50 閉会 17:00		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	桂田委員	坂下委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	内田教育総務課長	日比野生涯学習スポーツ課長	松宮 GL	井上 GL
	栗原 GL	和久田 GL	安田企画主査		
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p>委員会開会</p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>年が明けると、学校の1年間の取り組みを評価する時期となる。1年間の学習活動を通して児童生徒に小浜市が目指す7つの資質能力が身についているか評価を行い、来年度の教育行政の施策に反映できればと考えている。12月市議会においても「人口減少社会におけるの教育の課題」についての質問があり、答弁させていただいた。市教委の1年間の取組みについてもしっかり評価したうえで、来年度の新たなプランに繋げていきたい。</p> <p>1 会議録の承認について</p> <p>第861回教育委員会定例会会議録 《承認》</p> <p>会議録署名人2名の選任</p> <p>第862回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《村上委員、坂下委員》</p>					

2 報告

- ・報告第19号 諸般の報告 令和5年11月17日～令和5年12月14日
行事予定 令和5年12月16日～令和6年1月31日 《承認》

3 教育長報告

窪田教育長 本日、教育委員の皆さんには小浜中学校で行われた探究的な学習の発表会にアドバイザーとして参加いただいたが、意見や感想等をお聞かせ願いたい。

上田職務代理者 ごみ問題を取り上げたグループは、自分たちでゴミ箱を作成し市内に設置できないかと考えたが難しいことが分かったため、最終的に学校内に設置した。“ごみ問題”という課題を自分たちで設定して調査研究し、説明しており感心した。

また、北陸新幹線敦賀開業に合わせて市内の飲食店とのコラボで弁当を考案したグループは、市のイベントで100個販売し完売したとのことで、今後取組みを更に発展させられると良い。

桂田委員 小浜の日本遺産にスポットをあてたグループ、食品ロスを取り上げたグループ、“推しカフェ”を開催したグループや統合した学校の空き校舎をフィールドとしたゲームを考案したグループなど、どのグループも地域の活性化を図ることを目的に、大人が考え付かないような発想と意を持ってパワフルに取り組んでおり、短い期間の中で試行錯誤して自分たちの形にし、発表できており非常に良かった。

村上委員 プレゼンテーションにおける資料の“見せ方”が素晴らしかった。最初の計画通りに進まず挫折しても別の方法に切り替えて工夫し最後までやり遂げており、非常に良かった。同席したアドバイザーから、「その課題を探究しようと考えた根拠をしっかり持つことが必要」という話があり、最初の課題設定段階で結果において証明されるための根拠が大事だと感じた。

坂下委員 小浜の歴史文化を地域の方々と楽しく学ぶことを目的に据えたグループは、自分たちの取組みのプロセスを非常に分かり易くまとめて発表しており、自分たちがやり

たいことに向かって一つひとつ課題解決に取り組んでいたことが印象に残った。また、自分たちの失敗をしっかりと分析し、その原因を含めて発表できていたグループがあり、「失敗した経験を理由やその後の取り組みを含めて聴けたことは、私自身にとってもよい勉強になった」と感想を述べさせていただいた。

窪田教育長 小中学校の探究的な学習は、高校生が取り組む探究学習に比べて教員のかかわり方の難しさが増してくる。そのあたりが今後の大きな課題であると考えている。

上田職務代理者 今回は中学3年生の取り組み発表であったが、自分たちができなかったことを下級生に引き継いでほしいという話までできており、大変良かったのではないかと思います。

事務局 小中学生に対しては、設定した課題のハードルがどこにあってそれをどう乗り越えるかということ、大人が考えサポートしていく必要がある。例えば、子供たちが町をきれいにするための解決策としてごみ箱を作ったが、それを町中には置けなかった。そういった子供たちではどうにもならないハードルについて、学校・行政・地域がどのように関わり解決していくかということが今後重要なのではないか。また、子供たちはハードルを越えられないからやめるのではなく、ハードルを見つけることも一つの探究として捉え、それを下級生に引き継いでいくことが大事だと考える。子供たちは大人が考えないようなフィールドをたくさん持っている。そういった部分を広げられるようにしていけるとよい。

村上委員 1年間という限られた時間の中で、問題を取り上げ、探究し、まとめていかなければならないため、時間的にできないこともあり可哀そうな部分はあった。本当に大変だとは思いますが、やりきること達成感が生まれ喜びを味わえると思う。

窪田教育長 小浜中学校は、今年度初めてこのようなかたちで探究的な学習を行った。大人が考えるアイデアや発想をはるかに超えていた。小浜第二中学校については3年前から学年に捉われないチームで探究的な学習を進めている。そのため、1年生が3年生の取り組みを学び、引き継ぐことができおり課題が進化していつている。小浜中学校も、今後どのように探究していくのか考え、進化していくと思う。その中で大事なことは、目的と方法をしっかりと分けて持つということである。この活動を通し

てどのような能力を身に付けられたのかを評価できなければならない。評価する能力は教育大綱に示している7つの資質能力である。人生の岐路に差し掛かった時に、これまで育んできたものをどこでどのように生かすかを方向付けられる資質能力が必要であり、その資質能力は、故郷に対する愛着と誇りである。そして、それをどこでどう結び付けて発揮するかという、自分のキャリアデザイン力を育てたい。小浜中学校は初めての取組みで失敗もあったとは思いますが、それを下級生が引き継ぎ次年度に生かしてほしい。小中学生が地域の課題に取り組むにあたり、その発想が実現可能なものであるのかについては、大人が適切なアドバイスをしていく必要がある。学び方を学ぶ場であるので、実現可能性、持続可能性をどのように指導していくか、学習の計画段階でハードルを察知し、実現可能な計画に変更するなどの力も育てられるように大人が関ってかなければならない。子供たちはたいへんよく頑張っているので、実現可能性と持続可能性を考えながら子供たちのモチベーションが下がらないようにサポートしていく必要がある。

4 その他

・卒業式における教育委員会告示について

窪田教育長 ここ3年間、コロナ禍の卒業式で教育委員会告示を行わなかったが、今年度どうするかについて意見を伺いたい。

村上委員 学校長式辞とPTA会長の祝辞があれば充分かと思う。

窪田教育長 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが、全てを元に戻すのではなく、今後も教育委員会告示は行わないこととしてよいか。

《全委員 同意》

・若狭マラソン大会について

事務局 例年、若狭マラソン大会の参加者募集は1月開始であるが、次回大会は「北陸新幹線福井・敦賀開業記念 つながる小浜 走ろう若狭路」をサブタイトルとし、出

向宣伝で各新幹線の最寄り駅や首都圏でもPRしてもらおうなど、4月21日(日)の開催に向け準備を進めているところである。

委員会閉会

(教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委員 村上 郁子 教育委員

委員 坂下 貴洋 教育委員